

一般口演

(3) 運動負荷によるスポーツビジョンの変化に及ぼす円皮鍼刺激の影響

○松田 啓佑¹⁾, 片山 憲史²⁾, 木村 啓作²⁾, 水上まゆみ²⁾, 吉田 行宏¹⁾,
矢野 忠²⁾

明治国際医療大学大学院鍼灸臨床医学¹⁾, 明治国際医療大学健康・予防鍼灸学教室²⁾

要 旨

【はじめに】

スポーツビジョンとはスポーツ活動に必要な視機能の総称であり, その能力の優劣が競技力に大きな影響を与えている. そこで, スポーツビジョンの基本能力である静止視力, 動く指標をみる動体視力, 距離感を認識する深視力に着目し, 運動負荷が及ぼす影響を検討するとともに, 円皮鍼刺激がスポーツビジョンに及ぼす影響についても検討した.

【方法】

対象は, 健康成人男性7名で, 日を変えて円皮鍼刺激と無刺激を行った. エルゴメータによる漸増運動負荷を行い, 静止視力, 動体視力, 深視力の変化を経時的に測定し, 記録した. 運動負荷と同時に心拍数を記録した. 測定は安静時(1回目), ウォーミングアップ後(2回目), 運動負荷後(3回目), 安静時心拍に回復後(4回目)の計4回行った. また, 運動負荷による眼循環動態を確認するため運動負荷前後で第三者により血流量を測定し記録した. 刺激の介入は, 合谷, 太陽, 光明への円皮鍼貼付とした.

【結果】

静止視力は, 無施術群では1回目 1.3 ± 0.2 , 2回目 1.4 ± 0.2 , 3回目 1.3 ± 0.2 , 4回目 1.4 ± 0.1 と2回目と4回目には上昇する傾向がみられた. 円皮鍼刺激群では1回目 1.3 ± 0.3 , 2回目 1.3 ± 0.3 , 3回目 1.2 ± 0.3 , 4回目 1.2 ± 0.2 と3回目と4回目には下降する傾向がみられた. 動体視力は, 無刺激群では1回目 0.7 ± 0.2 , 2回目 0.7 ± 0.1 , 3回目 0.7 ± 0.1 , 4回目 0.7 ± 0.1 と変化は認められなかった. 円皮鍼刺激では1回目 0.6 ± 0.2 , 2回目 0.7 ± 0.1 , 3回目 0.6 ± 0.2 , 4回目 0.6 ± 0.1 と2回目に上昇する傾向がみられた. 深視力は, 両群ともに明確な変化は認められなかった. 眼循環動態は, 明確な変化が認められなかった.

【考察・結語】

運動負荷による視力の変化には眼底血流とは違う因子が影響している可能性が示唆された. また, 円皮鍼刺激による影響はスポーツビジョンには認められなかった. 今回は, 視力の変化量が少なく運動負荷方法や刺激の介入方法を再検討する必要があると考えられた.